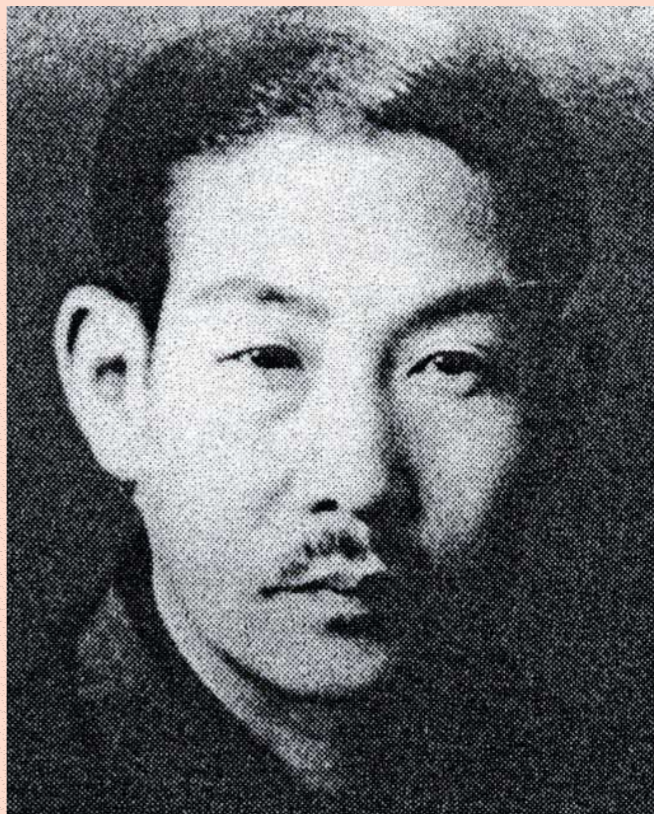


短歌

いく
た
ちよう
すけ
生田蝶介



下関市
(1889～1976)

生田蝶介は下関市長府に生まれた。十三歳で京都に出て叔父の養子となり、早稲田大学英文科に入学。明治四十二年に博文社に入社し、編集者として『講談雑誌』を出版し、雑誌に初めて短歌欄を設けた。大正十三年、短歌誌『吾妹』を創刊し、歌人として大正・昭和期の歌壇に大きな業績を残す。また、後進の育成にも人一倍情熱をささげた。彼の短歌創作の心得を記した「吾妹歌憲」は脈々と受け継がれている。また、短歌以外に、小説、詩、評論と、幅広い文学活動を続けた人でもある。

(野村忠司)

【主な著作】

歌集『渦潮』(博文館、大正11年)

『聖火燃ゆ』(福永書店、昭和3年)

『生田蝶介全歌集』(短歌新聞社、平成2年)